

## 干支・猪のおもいで

今年の干支は「ゐのしし」の出番となった。この‘猪’は猪突猛進といわれて殊のほか元気がいいように言われているが、実際には臆病な野生動物だそうである。

中学生のころ京都市内の自宅付近の山中で手負いの猪に襲われたことがある。ある冬の昼下がり、遊び友だちと「めじろ」を獲ろうと、いまは禁止されているカスミ網を仕掛けていたとき、突然「バーン！」という鉄砲の音に慌てて藪から農道へ走り出た。その途端、真正面から猪がよろめきながらわれわれ二人に向かってきた。「逃げや！」友の声にきびすを返し、すぐ左の傾斜地へよじ登ったところ、何とその猪は猪突猛進どころか、方向転換してわれわれの後を登りだしてきたのである。これにはぶったまげた。必死になって上を目指したが、しばらくして鉄砲を担いだ猟師が 2~3 人、「あっちやあ〜」と叫び声をあげながらどたどたと追ってきた気配に、猪は後ずさりして農道へ降り、そのまま逃げ去った。後には赤黒い血が点々と滴っていて手負いだったことが分ったが、子ども心に腰も抜かさんばかりに仰天した。

終戦直後近所に猪の仲間である、豚を飼育している農家が数軒あったが、いずれも汚く不潔で臭いというイメージしかなかった。それが、ケニアのツリートップホテル（エリザベス女王が旅行先のこの高級ホテルで父ジョージ六世の死を知った）のテラスから見下ろしたときには、眼下をうろついていた薄汚いイボ猪が高貴に見えたから不思議である。その後、アメリカで養豚場を見学したときは、豚も豚舎もあまりにもクリーンできれいなのはびっくりした。オーナーに聞いてみると豚はきれい好きで、常に清潔にしていないと大きく成長しないと知ってまた驚かされたものである。猪と豚のイメージも随分変わった。

そう言えば、ニューヨークにある国連本部ビルの地主は、大富豪コロンビア大学であるが、元は「豚の屠殺場」だったという。豚は死して国連ビルを残す・・・か。

(近藤)